

鎌倉市市民活動センター広報紙 第107号 令和5年 向暑号（季刊）

発行／編集：鎌倉市市民活動センター <https://npo-kamakura.com/>

リレートーク No.26



北鎌倉湧水ネットワーク 代表 野口 稔

六国見山の景観保全、湧水を活用したまちづくりに取り組むこと22年。設立以来、里山再生や自然環境保全、団塊世代の地域デビューの支援企画など北鎌倉をフィールドに活動を続けています。志を同じくした組織が緩やかに連携し、得意技を提供し合ってそれぞれの目的を達成する「分散型市民運動」という新たな活動あり方を提起し実践中。

北鎌倉湧水ネットワーク
のサイトへの
アクセスはこちらから



リレートークとは：

鎌倉市で市民活動に取り組む人とその団体にスポットをあて、活動の様子を紹介するコーナーです。鎌倉らしい活動をされている方、地道にコツコツと頑張っておられる方がお近くにいらっしゃいましたら、リレーの輪に加わっていただきたいと思います。是非、お知らせください。

里山再生は究極のSDG s

北鎌倉湧水ネットワークは5月1日、「里山再生は究極のSDG s -六国見山に刻んだ22年間の活動足跡-」（B5判、158ページ、フルカラー印刷、税込み価格1000円）を出版しました。この本は2000年10月1日に北鎌倉・六国見山の森が育んだ湧水を使った地ビール「北鎌倉の恵み」を世に送り出すために発足した北鎌倉湧水ネットワークの22年間にわたる多彩な活動の詳細な記録です。

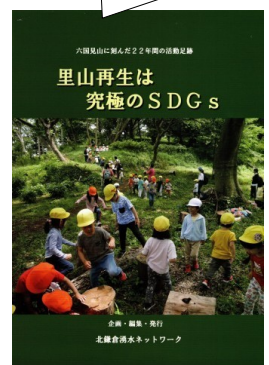
この本は「第1章 地ビール『北鎌倉の恵み』誕生」、「第2章 団塊世代の地域デビューを支援」、「第3章 鎌倉の美しい里山継承プロジェクト」、「第4章 活動を貫く循環の思想」、「第5章 活動資金は自力と他力」、「第6章 次世代への継承」の6章で構成されています。カラー写真約500枚を収録し、里山とは何か、あるいはSDG sとは何かについて、分かりやすく説明しています。市民活動を継続するためには、活動資金が必要ですが、どのようにして活動資金を手当てしてきたかについても詳しく書いてあります。

本来なら2020年に北鎌倉湧水ネットワークの設立20周年記念行事の一環として、イベントとのセットで20年間の活動記録の出版を考えていました。しかし、新型コロナ感染拡大によりイベントは幻になってしまいました。「失われゆく記憶ではなく、後世に残るしっかりとした記録として残したい」という強い信念に基づいて出版しました。本書は自費出版です。しかも企画→編集→印刷の発注→出版という出版に至る全行程を北鎌倉湧水ネットワークが独力で行い、出版に漕ぎ着けた手作りの本です。NPO活動をされている多くの皆さんに一読を願えば幸いです。

NPOセンター
鎌倉で販売中



六国見山の倒木撤去作業の様子



「里山再生は究極のSDG s」税込1,000円

NPO

もちろん無料

活動相談会

始まりました！

会場：NPOセンター鎌倉

対象：どなたでも

日時：毎月第2・4水曜日

①13:30～14:30

②14:30～15:30

③15:30～16:30

※事前にご予約ください

市民活動に関わる「ちょっと聞いてみよう！相談会」を開催しています。助成金獲得やNPO法人化など経験豊富な2人のアドバイザーが無料でご相談に応じます。どなたでもお気軽にお越しください。

身近な地域でグループを作って活動したい

ボランティア活動を始めたい

団体の法人化検討中です。やり方を教えて！

団体運営で困っている

市民活動アドバイザーから

センターでの相談業務では、まずはお伺いからはじめ、相談者のニーズの先にあるものにつなげて行きたいと思います。

経歴：企業で人事・総務を担当。その後約20年間横浜診療所（精神科）で職員として勤務。同時に地域でのよろず相談などを行うかたわら、子どもたちの支援活動に参加。3.11以降は東北支援のため鎌倉のさまざまな団体と協働することで活動の範囲が広がりました。里山保全にも参加しております。



橋本 等



中川麻希子

「法人化し、組織を固めてしっかり活動していきたい」「寄附を得やすいよう認定NPO法人にしたい」など、次のステップを目指す際に必要となってくる書類作成のお手伝いが得意分野です。認定法人へのハードルは高いのですが、神奈川県条例個別指定制度を活用して認定となることも可能です！NPO法人の認証機関での勤務経験を生かして、団体のさらなるバージョンアップをお手伝いします。

シリーズ「町内会」 町内会は「超イイ会！」

地域の組織作りの基盤、町内自治会への加入率が下がる傾向が続く一方で、災害時など地縁のつながりの強化も求められています。そんな中、先駆的な試みに取り組んでいらっしゃる町内会をご紹介します。

岡本町内会 「まちのコイン クルッポでいいつながりを」

店舗、寺院、駅・・・スポットの顔ぶれは様々ですが、町内会の加盟は珍しい！と思い、お話を聞いてきました。（町内会の役員は一年交代のため、導入のいきさつは当時の担当だった方へ聞き取りをお願いしました。）

昨年秋、掲示板に貼ったまちのコインのポスターで初めて知ったことがきっかけで、なんだか面白そう！地域のつながりを強めるには良いかも！と思い役員会へ導入の話を提案しました。役員全員に仕組みを理解してもらう為にプレゼンテーションを実施し「地域と人をつなぎ、町の活性化につながる試み」というメリットに共感してもらい、導入に至りました。

町内会主催の「たまなわ児童遊園と谷戸池での月一定期清掃の活動」にもっと多くの人を集めたいと考えていたので、参加者へコインの配布を始めました。子ども達はコイン集めに楽しそう。転入してきたばかりの人がクルッポに興味を持ち、参加してくれたり、他地域の人がわざわざ清掃しにきてくれた例も。スマホの操作にまごつく時には若者世代に聞いたりして世代を超えてのコミュニケーションツールにもなっています。これからは再開しつつある町内会でのイベント、例えば「夏休みラジオ体操」「玉縄まつり」「運動会」などで楽しく展開していければと思っています。岡本町内会だけではなく、他の町内会やお店でも導入が更に進めば、地域の交流が生まれ、鎌倉のまち全体の活性化へつながりそうな予感がします。（岡本町内会 福祉部の皆さん談）



まちのコイン



クルッポで身近な地域の多世代交流。コミュニティ力のアップはもしもの時にも安心ですね。

郊外住宅地の買い物難民×水産業の人材不足救済 ⇒ 地域がつながる新しい魚屋

地域がつながる

さかなの協同販売所「サカナヤマルカマ」

鎌倉市の住民と鹿児島・阿久根市の水産業者が協同運営する新しいスタイルのまちの魚屋です。魚屋の運営を通じて郊外住宅地における買い物難民、水産業における人材不足や若者の流出、といった様々な地域課題を同時進行的に解決することを目的に、2023年4月、鎌倉・今泉台にフラッグシップをオープンしました。

■ 始まりは 地域と地域をつなぐプロジェクト

阿久根と鎌倉、この遠く離れた二つを結び付けたのは、2017年から鎌倉の民間企業（株式会社カンバセーションズ）と鹿児島県阿久根市が始めた「阿久根と鎌倉」という地域間交流プロジェクトです。この企画は、阿久根市は元々漁業・水産業が盛んなまちであるにも関わらず、今では鮮魚専門の販売店が一軒しかないという危機的状況を受け、当時阿久根市の地域おこし協力隊であった石川秀和さん（現（一社）鎌倉さかなの協同販売所理事、（株）まちの灯台あくね代表）と、鎌倉を拠点に地域間交流プロジェクト「〇〇と鎌倉」を主催する（株）カンバセーションズとで始めました。

まず、阿久根の高校生や若手水産業者、市職員などが毎年短期間鎌倉に滞在し、阿久根の鮮魚販売や、鮮魚をつかった食堂運営を行うイベントを積み重ねていきました。

2018年に、今泉台と由比ガ浜で鮮魚の移動販売を実施したところ、今泉台で連日の行列、3日間とも完売！という事が起こりました。これはまったく予想していないことでした。さらに、販売場所の提供や広報面で協力をした当時の今泉台町内会長らが、「このプロジェクトは自分たちの地域の課題を解決することにもつながる」と気づき、阿久根側や企業に任せるのではなく、自分たち住民で事業化を検討しようと動き始めたのです。



■ 店舗開店に向けて

こうして、住民主体で2021年5月「鎌倉さかなの協同販売所準備室」を設立し、2022年6月には開業資金の一部調達を目的とした目標金額500万円のクラウドファンディングを実施したところ、結果として、目標を大きく上回る約760万の支援を受けることができました。

11月7日“いいさかなの日”に、阿久根側の水産業者やまちづくり会社も巻き込み、「一般社団法人 鎌倉さかなの協同販売所」を設立。店舗運営のために多世代・多様なキャリアをもつ4名のアルバイトスタッフを採用し、アドバイザー・上田勝彦氏（元水産庁官僚・魚の伝道師）の研修を経て、今年4月にフラッグシップを今泉台にオープンしました。

■ そして現在

オープン6週間が経過し売上・客数は想定以上。



週1～2日通うリピーターもすでに複数名おり、暮らしのインフラとして機能し始めている実感があります。店舗中央に設置した対面型のカウンターで顔なじみの地域住民が接客をすることで、高齢住民は安心感もあり、魚を介したコミュニケーションの場にもなりつつあります。また、SNSの運用やメディア広報により、子育て世代や、町外からの来店も増え、それぞれの世代・ライフスタイルに合わせた魚食の提案ができるよう、準備をしています。

6月からは、買い物難民の課題を抱えた市内の他のエリアで移動販売も開始しました。また、今後は魚を扱う様々なワークショップや角打ちなども行う予定で、学び、繋がれる、まさに“地域がつながるさかなの協同販売所”を目指し、地域で愛される魚屋をつくっていきたいと思っています。

サカナヤマルカマ広報担当

狩野真実



狩野真実さん（正面右から4番目）

新規登録団体のご紹介（4月～6月）

鎌倉アジサイ同好会

鎌倉を中心にしたヤマアジサイを愛する人たちの会です。ヤマアジサイの花を愛で、育てる喜びを味わい、健康的で幸せな人生を楽しむことを目的に活動しています。年2回展示会を行い、会員相互の交流とお客様との出会い、ふれあいを通じて社会に貢献しています。

<https://www.facebook.com/yamaajisai>



事務局から

NPOセンター25周年！新たなロゴの誕生です



鎌倉市 市民活動 センター

センターが皆さまの
結末点となるよう、
縁起のよい「叶結び」
（かのうむすび）を
鎌倉のイニシャル
「K」の形にデザイン
しました。

＼鎌倉の山、海、歴史を3色で表現／

印刷料金の改定について

6月1日より印刷機の価格改定を行いました。
ご理解とご協力をお願いします。（用紙代別）

◆簡易印刷機（リソグラフ）（鎌倉/大船）
印刷枚数、用紙サイズに関わらず、一律1枚1円。
（別途版代は1版50円）

◆高速プリンター（オルフィス）（鎌倉）
モノクロA4・B5は2円、A3・B4は4円。
A4フルカラー1枚10円。
（カラー印刷は割合により変動します）

※コピー機（大船センターのみ）モノクロ1枚5円は変更なし



「NPO支援かまくらファンド」の募集が始まります

認定NPO法人鎌倉市市民活動センター運営会議が主催する「NPO支援かまくらファンド」は、鎌倉で社会貢献活動を行っている市民活動団体に公開審査会を経て選ばれた団体に助成しています。

●公開審査会 2023年11月3日（金・祝） 於：たまなわ交流センター

●助成金総額 40万円

●募集期間 2023年8月1日（火）から9月15日（金）

※「応募の手引き」「応募申込書（様式）」は、ホームページに掲載いたします。（7月1日から公開予定）



NPOセンター鎌倉
〒248-0012

鎌倉市御成町18-10
鎌倉市役所 第2分庁舎
TEL/FAX：0467-60-4555

E-mail：npo@chive.ocn.ne.jp

NPOセンター大船
〒247-0061

鎌倉市台1-2-25
（たまなわ交流センター 1 階）
TEL/FAX：0467-42-0345

E-mail：npo2@abelia.ocn.ne.jp

登録団体数：327団体
令和5年6月20日現在

※登録団体の登録内容
（連絡先・代表者・活動内容等）
に変更があった場合は、
速やかにお知らせください。

湘南・海のようにえんスイミーズ

海で遊ぶ楽しさをもっと多くの子ども達、大人たちに知って欲しい。私たちは、海を身近に暮らせる湘南エリアの子どもたちと海で自由に過ごしています。自然との付き合い方を学び、豊かな発想力、自由な表現力、友だちの大切さを学ぶ場、新しいコミュニティを形成することで幅広い年代の居場所作りにも貢献していきたいと思っています。
<https://swimmys.org/>

貸出機材が増えました♪

行動制限もなくなり屋内外問わずイベントが盛んに行われるようになりましたね。
自粛していた団体さんも、講座、ワークショップ、記念式典など久しぶりに開催してみませんか？
センターで借りることのできる機材が増えましたのでお役立てください。

- ・プロジェクター 1000～2000円（持ち出し+200円）
- ・イベント用テント（3m×3m）1000円
- ・会議用マイクスピーカー 500円
- ・会議用モニター 500円
- ・マイク 300円
- ・会議室でのWi-Fi接続無料！

登録情報の更新と活動報告の提出のお願い

今年も年1回の登録情報更新の時期となりました。更新される情報とあわせて昨年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の年間活動報告を8月末までにセンターへお寄せください。別途、各団体宛にこの報告のためのフォーマットをお送りします。

いただいた情報・報告は、センターからのイベント情報や助成金情報の提供、団体とボランティアのマッチング、団体広報の支援など皆さまの活動を支援するために活用させていただきますのでご協力をよろしくお願いいたします。